

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒

八ヶ岳ー氷と岩の殿堂ー



行者小屋から仰ぐ赤岳

冬の八ヶ岳は明るい。北アルプスに豪雪が吹き荒れる季節、ここ八ヶ岳は、風こそ強いが快晴の日が多い。青空に映える氷と岩の殿堂・八ヶ岳を愛するファンは多い。

1月半ば、アイスクライミングの合宿をやっている若い連中の激励に出かけた。激励といっても、実は夜のテントの、酒の仲間入りをするのが本音である。

テント場は行者小屋。快晴の朝、ジョウゴ沢など



行者小屋への道

のアイスクライミングに出かける若手主力を送り出した後、高年者組は八ヶ岳連峰の主峰・赤岳（2899m）を目指すことにした。文三郎道を登り、地藏尾根を下りる計画である。



文三郎道からの中岳・阿弥陀岳

9時出発。文三郎道は、行者小屋から、中岳との鞍部の文三郎分岐を経て、尾根筋を直路、赤岳頂上に突き上げる標高差約550mのルート。ダケカンバ帯が終わる付近から岩と氷のミックスした急傾斜となり、アイゼンをきしませながらの登行となる。風が強い。沢を隔てた赤岳南峰リッジの岩登り仲間の動作が手にとるように見え、互いにエールを交換し合う。

11時、赤岳南峰到着。三角点標と祠がある。南アルプスの山々がよく見えるが強風と寒さで展望を楽しむどころではない。

風に飛ばされないようにバランスに気をつ



赤岳山頂から臨む南アルプス

けながら、主稜線の狭いリッジを伝って北峰に進む。ここにある赤岳頂上小屋の風陰に入ってやっと小休憩。テルモスの熱い紅茶に人心地がついた。

次いで、北峰から30分の尾根伝いで地藏ノ頭に達し、ここから主稜線に別れて地藏尾根を下る。しばらくは岩と氷のミックスした急傾斜で、アイゼンを効かせながら一步一步慎重に下りる。

そして、やっと樹林帯に達し傾斜も緩くなった途端に、腰までの深雪に出くわしラッセルに大汗をかいた。これぞ、年寄りの冷や水。テント帰着は午後1時半となった。